伊豆沼・内沼

サンクチュアリセンターニュース

Sanctuary Center News

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターの入り口付近に、沼に生育する水生植物を展示しています。珍しい水草や花の美しい水草を展示していますので、ぜひご覧ください。

Vol.123
令和2年度9月号

2020年のハス開花状況について

例年であれば7月から8月にかけてハスの花で埋め尽くされる伊豆沼・内沼ですが、今年はハスの開花数が例年より少な目でした。なぜでしょうか。

まず考えられるのが7月の日照不足と冷夏の影響です。ハスは暖かい地域の植物なので、日照不足と低温の影響が大きかったのかも知れません。次に考えられるのが、高水位によるハスの水没です。ハスは葉まで水没すると、呼吸ができず枯れてしまいます。今年は、梅雨の長雨で水位が高かったため、ハスの呼吸が妨げられた可能性があります。第三の原因として、昨年秋の台風があげられます。台風により伊豆沼・内沼は長い間水位の高い状態が続きました。そのため、ハスの呼吸が妨げられた可能性があります。

水草は、伊豆沼・内沼の環境変化によって影響を受けやすいため、これからも注視していこうと考えています。

伊豆沼北部において開花中のハス（2020年8月21日）

ジオパーク学習が行われました

８月５日、栗原南中学校の１年生が栗駒山麓ジオパーク学習で伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターを訪れ、体験学習を行いました。

体験活動は、定置網の生き物観察と池の二枚貝採集を実施。モツゴやタモロコなどの小魚や、大きなカラスガイなどが捕獲できました。生徒の皆さんは、普段触れることのない沼の生き物に間近に接し、驚いている様子が見られました。

当日は気温が３０度を超える猛暑の中、熱中症に気を付けながらの活動となりましたが、暑さに負けず一生懸命に活動する生徒の姿に感銘を受けました。

▲定置網にかかった生き物とご対面。ウシガエルのオタマジャクシがたくさんかかり、生徒の皆さんはビックリ仰天！この後、オタマジャクシとそれ以外の生き物に仕分けるのは大変でした。

▲水生植物園の池に入って二枚貝を探す様子。履き慣れない胴長を着て行う作業は、「大変だったけど面白かった」と好評でした。泥の中を歩きながらカラスガイやイシガイなどを獲りました。

校外学習支援を再開し始めました

財団では毎年、希望する小中高生を対象にさまざまな校外学習をご支援してきました。しかし、今春はコロナ禍の影響もあり、すべての校外学習支援が中止となりました。その後、緊急事態宣言が終了した頃より、少しずつ校外学習の依頼に対応し始めています。

写真は地元築館高校の科学部。水質対策の一環で刈り取っているハスの葉を使い、科学実験をするそうです。他にも栗原市の岩ケ崎高校や金成中学校、仙台市の高校の生物部の学生さんを対象に、体験活動や講話を行いました。三密に注意を払いながら引き続き子どもたちの環境学習活動の支援を継続する予定です。

イギリスのBBCが伊豆沼のハスを取材に

8月16日～21日に英国放送協会（BBC）のクルーが伊豆沼のハスの撮影取材に来ました。これだけの規模を誇るハス群落は世界的にも他に類をみないとのことで、私たちもその価値をあらためて認識しました。いずれBBCの自然番組の中で伊豆沼のハスが世界中に紹介されます。

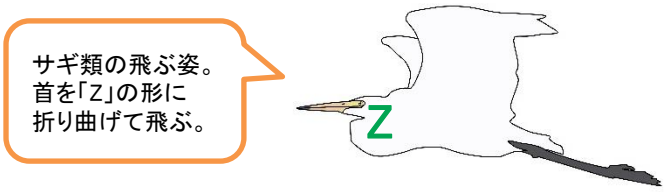
伊豆沼・内沼生き物図鑑

チュウサギ　*Ardea intermedia*

伊豆沼・内沼がハスに覆われる夏の時期、白くて細長い鳥が見られます。その鳥の正体はチュウサギです。チュウサギは夏に東南アジアから渡って来る夏鳥です。伊豆沼・内沼では頻繁に見ることができますが、日本全体では数を減らしており、国の準絶滅危惧種に指定されています（環境省レッドリスト2020年より）。

かつて、チュウサギを含むサギ科の鳥はコウノトリの仲間（コウノトリ目）として分類されていましたが、遺伝子解析によって、現在ではペリカンの仲間（ペリカン目）に分類されています。普段は首を伸ばしていますが、空を飛ぶときには首を「Z」の形に折り曲げます。首を折り曲げて飛ぶのは、他の鳥にはないサギの特徴です。

伊豆沼・内沼では、ハスの葉の上にのって魚を探す様子が観察できます。じっくり観察すると、首を素早く伸ばして魚を捕らえる場面が見れますので探してみてください。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者　（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel0228-33-2216　Fax0228-33-2217
ホームページ:http://izunuma.org/
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp